

きずな



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

関東ブロック

ユネスコ活動研究会in東京



永野会長（右から2人目）

9月3日(土)青山学院大学で400名を超える参加者が集い大会は始まった。(連)永野会長、(公社)日ユ協連佐藤会長の挨拶からはじまり来賓、文科省国際統括官渡辺正美氏・東京都教育長など祝辞が続いた。この後、コシノジュンコ氏の講演を迎えた。「ファッションの持つエネルギー」と題して、ユネスコとの関わりや、東日本大震災後に、被災地の復興に尽力

された様子を語られた。日本ユネスコ国内委員会から、都ユ連2000人プロジェクト(新組織拡充プロジェクト)として11のアクション紹介があり会員増への取組披露が行われた。最後、次年度は2024年10月12日茨城県土浦市で開催、茨城県ユネスコ連絡協議会から参加の呼びかけがあった。その後の分科会では参加者100名が見守る中、当協会の江原理事の「当協会がユネスコスクール(以下Uスクール)に取組んだ理由、現在の動き、新時代への挑戦」と題してパワーポイントを駆使し発表を行った。質疑応答では参加の関心が高い印象のものが多く、中でもこの事業に取組んだ理由の詳細が聞か



第三分科会会場

れ、会長田村が説明に立った。多岐にわたる活動がある中、この先の事業は、ユネスコ憲章理念を遂行していくのは若い世代が担う事を共通認識とし、更に遂行するためには、蓮田市の行政や教育委員会との連携と理解が欠かせなかったことが大きな力で当時の議会では「地域初のUスクール加盟に関する請願書」を用意していただき加盟承認を得、現在に至るまでを説明した。他の出席者から、賛辞も多く聞かれ、「今後指導をしてほしい」などと求められた。後刻、連盟会長から、渡辺国際統括官が、「地域のユネ

スコ協会がどんな想いで一生懸命Uスクールと向き合っているのがよくわかった」と云われた事が何よりの労いの言葉であった。18時より交流会は、立食パーティ。4年ぶりの対面開催で、懐かしい面々、新規に参加した学生会員などと意見交換などあり、楽しいひと時だった。最後は、全員で「今日の日はさようなら」を合唱し散会となった。(当協会参加者)分科会11名 交流会7名青年部3名 ビジタ1名(了)



関東ブロック・ユネスコ活動研究会参加者

新年度挨拶

新規事業の取組と今後の課題

会長 田村勝彦



謹賀新年

本年も宜しくお願い致します。

令和5年は様々な取り組みをして来ました。

また関東ブロック・ユネスコ活動研究会in

東京では、分科会において「ユネスコスクール」に関する発表の機会も得ました。今まで

4本柱の活動を休むことなく継続して来ましたが、「地域文化遺産

スタディ」について今は少し違った視点から取り組み講師の発掘に努めて参りたいと思

います。国際文化スタディは、講師の諸般の事情で当面延期することになりました。なお、

新規事業の「平和の鐘を鳴らそう」と「平和のワークショップ」に

については継続実施したいと考えております。初めて他団体と手を携えた企画で歌あり朗読ありで、地域の皆様と連帯感が生まれたと思います。学校支援協力活動に関しては、5校の講師派遣要請が常態化することなどによって、教育現場との接点が多くなり、活動主体が教育と云う目的に添ったものになりつつあります。Uスマイル事業などの検討など40代から50代の役員の活動も活発になり、それぞれ求めている学びや、文化などを世代を超えて共有する企画にも挑戦できる年かと思っております。次年度もこれらの若い力の活動に期待しつつ、さらに幅広い世代にも興味を持ってもらえる活動と体制再構築に向け精一杯頑張りたいと思います。

学校支援協力活動報告



是永講師

「知・覚・考・動」
知・覚・考・動

グローバル教育ローマ

是永美夏子講師

(UIC海外ボランティア・エジプト)

講師には異なるテーマで蓮田市内3校の講演をお願いしました。児童・生徒はパワフルな講演に魅了されていた。そして様々な課題に対し素直な感想を述べてくれたことが講演を聴いていた私たちの心にも響いた。今後の活動での企画に活かさせていきたいと思った。以下児童生徒からの感想を紹介します。

①「日本の中のぼく 世界のわたし 私たちの置かれた世界とは？」10月24日蓮田中央小学校 (ユネスコスクール) 4〜6年生

エジプトは12歳が家族にパンを買う為に働く。普通の事と違っていた学校で勉強や給食を食べる友達と遊ぶ事等がとても大切だと感じた。人権について3つの人権を大切に

て、戦争のない平和な世界になるといいと思っただ。(6年)

②「職業観の形成 将来の生き方を考える」11月13日蓮田中学校 (ユネスコスクール) 全学年ストリートチルドレンは学校に行けないと知り、私も何か行動していくべきだと思ひ、子どもが働いている現状は変えたいと思った。ユネスコスクールの生徒として、募金や問題について調べ、みんなが学校に行ける世界を作りたい。優しい心を大切に今、学校に來ている事に感謝し、世界の為に動ける人になりたい。(生徒会長)

③「人権を奪われた子どもたち」エジプトのストリートチルドレンの事例から11月30日黒浜西中学校 全学年生まれた国や人種は関係なく、お互いに尊重しあうことの大切さを学んだ。3つの人権「自分の人権」「目の前にいる相手の人権」「目の前にいない人の人権」を大事に過ごしたいと思った。(3年)

「ニカラグアの生活から自分の生活を考える」

花田愛講師

11月24日(金)

蓮田市立黒浜南小学校

「遠い国の知らない国の話」ではなく、同じ地球人として平和な世の中であるために、自分たちの



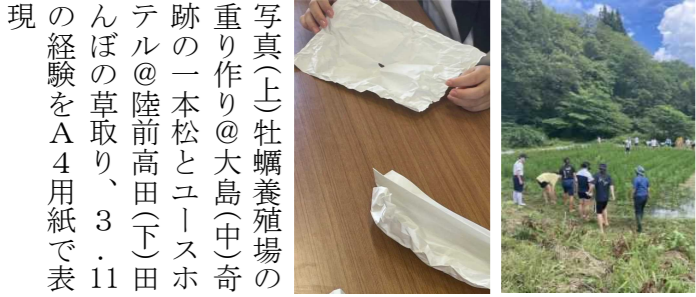
多いが、新しい出会いも沢山あり、ボランティアで気仙沼に来てくれる事が嬉しい」と言っている下さり、震災から12年経ったが復興ボランティアを通して新たな出会いや学びを得ました。(江原万菜)



青年部会活動

3月に参加したU Smileの研修で出会った箕面ユネスコ協会学生会員の誘いで、宮城県気仙沼市に7月15日〜17日訪問をしました。初日は、津波と火災で被害を受けた大島にある牡蠣養殖場で重り作りの手伝い。2日目は、奇跡の一本松と陸前高田ユースホテル・津波伝承館の見学をし、命を守る為に命を懸けて逃げた経験を知り、津波の威力と恐ろしさ

を風化させてはならないと感じた。午後は、海と山に囲まれた気仙沼で、子ども達が津波の被害から海を嫌いにしないように自然教育を行う団体と田んぼの草取りを行った。3日目は気仙沼高校の学生と交流し、「当時5歳だった自分たちが、震災を覚えていて最後の歳だから伝える責任がある」と辛く大変だった経験を大阪の高校生に伝え、当時の思いをA4紙で視覚的に表現しているのが印象的であった。民泊でお世話になったご夫婦が「震災で失ったものも



写真(上)牡蠣養殖場の重り作り@大島(中)奇跡の一本松とユースホテル@陸前高田(下)田んぼの草取り、3・11の経験をA4用紙で表現



花田講師

「暮らしてみたい パナマ共和国」元青年海外協力隊員 西小枝講師

11月7日(火) 蓮田市立黒浜中学校

生活を考えるきっかけになって欲しいです。(花田)

西さんはパナマ共和国で村落開発普及員として栄養改善プロジェクトに関わった2年間の活動を映像と共に熱く語られた。民族衣装に着替えられたり民芸品も紹介されながら異文化を知ることができた。世界人口における開発途上国の割合は8割でその中にパナマ共和国がある。日本の北海と同面積で、宗教はキリスト教、言語はスペイン語が公用語であり、伝統楽器や農産物などが紹介された。有名なパナマ運河は経済活動の基盤として運河周辺に様々な産業を發展させた。印象的な話ではパナマはポイ捨てが日常だということや、「イグアナ」がトマトと煮込んで食される事に生徒は驚いていた。質疑応答も活発にされたが、講師の西さんは文化の多様性と平和は大事にして生きる大切さ、自分の好奇心、「好き」を軸に何かに一

生懸命取り組んでいく事で道は開けるという力強い言葉をいただいた締めくくりで終演した。



西講師

国会議事堂・皇居周辺散策 文化遺産巡り

国会議事堂・皇居周辺散策

第21回文化遺産巡り「国会議事堂・皇居周辺散策」は、2023年11月21日(火)に42名が参加し、和気あいあいとした楽しい一日となりました。当日は晴天で風もなかく、絶好の天候に恵まれました。蓮田駅東口から8時半に定時出発し、田



参加者一同(42名)

村会長と中野顧問からのご挨拶後、山本理事より江戸城の成り立ちや築城の歴史、大奥の生活についての興味深い解説を聴きました。現地集合の11名と国会議事堂で合流、当日衆議院予算委員会が行われていたため参議院を案内頂きました。

国会議事堂は大正9年から16年かけて完成した重厚な建物で、戦時中の黒塗りのエピソードも紹介されました。昼食は議事堂内の食堂でお弁当を楽しみ、議事堂をバックにした集合写真を撮影しました。皇居内では普段外から見られない、長屋門、松の廊下跡等見どころを楽しみました。帰りの車中ではビンゴゲームの予定でしたが、時間の都合で実現せず、蓮田駅前が無事解散しました。企画にご尽力いただいた皆様に感謝し、中野顧問には特にお礼申し上げます。



100人の侍が居住した長屋門

夏のワークショップ

蓮田市民会のご協力



蓮田図書館におけるワークショップ会場

映画「あの日のオルガン」を支える蓮田市民会のご協力をいただき、原作本の「けんちゃん」とトシ先生」の朗読と疎開



映画「あの日のオルガン」朗読

体験談ビデオを鑑賞、6グループに分かれ10〜93歳までの42名の地域の方と世代を超えて平和についてのワークショップを実施しました。改めて、「知る事」の大切さを学び、平和の尊さを改めて実感しました。終了間際にサプライズで、映画「あの日のオルガン」と「あの日のトロロ」の著者久保つぎこ様がお見えになり、スペシャルトークショーとなりました。

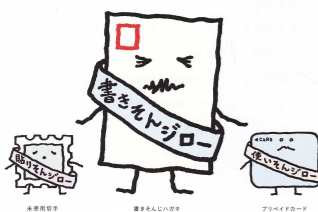
「感想」
さいたま市在住 川口様 親子参加私は、保育士をしている。朗読の中の保育士さん達のように、戦争から子どもを守りたいと思っても実際に実行し、子ども達を守ったお話は聞いているが今の自分ならできるのか？と自問自答をしながら聞いていた。戦争の中生き抜いていらした方々がいらっしゃるから、今日日本があると感謝するとともに、これから先戦争がない世界になってくれればと強く願うきっかけになった。貴重な機会ありがとうございました。

(母グループワークのときに、「夕日が、【嫌い】」と言っていたお婆さんが居て、空襲で空が赤くなつたことから、夕日を見ると悲しい気持ちを、思い出して【嫌い】と言っていたことが印象に残った。戦争がない世の中になつてほしい。(小5娘)



「となりのトロロ」原作者 久保さん

11枚の書きそんじハガキでひとりがひと月学校に。



会員紹介

加藤 繁さん
(かとう しげる)



「ダーを務めたり、今でも鴻巣市子ども会育成連絡協議会の役員として活動したりしていますが、ユネスコ精神をもっともっと深く学び、社会貢献が出来ればと思っています。」

現在は、県職員としての経験と知識を生かして、行政課題に取り組みながら、「蓮田市第5次総合振興計画」の実現を目指し、市長を支え市民の皆様の期待にこたえてまいりたいと思います。

埼玉県鴻巣市出身で、昭和61年に埼玉県へ入庁し、財政課、環境政策課などを経て、越生町副町長としての派遣や、共助社会づくり課長、行政改革・ICT局長、議会事務局長などを務めました。令和5年3月に定年退職をして、同年4月1日から蓮田市副市長を務めています。

お見舞い

2024年1月1日に起こりました能登半島地震につきまして、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

蓮田・白岡地方ユネスコ協会会員 一同

第79回日本ユネスコ運動全国大会報告

9月9日、「ユネスコを楽しもう、若い力を育む富士の国からこんにちは」の大会テーマに誘われて当協会から会長 田村、理事 江原が参加した。当日は、今年の富士山閉山の日が近いこと、河口湖でのトライアスロン大会が開催されたこと、外国人観光客も至る所に多くどこも賑わっていた。現地に行くために切符が取れず、鈍行列車で乗り継ぎながら漸くのこと、会場に到着した。さて大会は11時30分にオープニング演奏からの開会式で幕を開けた。主催者である佐藤美樹日本ユネスコ協会連盟会長と山梨県連山田勝彦会長の挨拶があり「歓迎の言葉」を富士吉田市長堀内茂氏が述べられ、祝辞には来賓として外務省外務副報道官岡野結城子氏、文部科学省国際統括官渡辺正美氏、山梨県知事、教育長の挨拶が続いた。13時35分から記念講演

「富士山と浮世絵」お江戸にタイムスリップ、デジタル化が明かした江戸庶民の文化」を牧野健太郎氏(米・ポストン美術館所蔵の浮世絵デジタル化日本側責任者、元日ユ協連盟評議員)が浮世絵の登場人物と一コマずつをわかりやすく説明された。パネルディスカッション「ユネスコの今と未来 私たちはこう考える」と題してコーディネーターの望月浩明氏のもと、高校生3人と会場以外から愛媛県立松山東高校の兼頭玄さんが加わり事例を交えた発表と質疑応答が行われた。講師は日ユ協連盟鈴木佑司理事長からいただいた。最後に次期開催県として愛媛県新居浜ユネスコ協会の会長吉田達哉氏より2024年11月23日に開催する説明と参加の呼びかけがあり終了した。コロナ明け開催に尽力された山梨県連皆様のご努力に対して敬意と感謝を申し上げます。



左から、理事 江原、山梨県知事 渡辺正美氏、山梨県教育長 Lee sunjoo氏、山梨県連山田勝彦、山梨県連山田勝彦、山梨県連山田勝彦

中野顧問叙勲のお祝いの会

(兼忘年会の開催) (於) 彩々楽

当協会中野和信顧問が秋の叙勲の榮譽に浴され旭日小綬章者の代表として陛下よりお言葉を賜りました。旭日小綬章とは社会の様々な分野で功績のあった人に贈られるものであります。このことを祝してささやかな祝賀を催させていただきました。忘年会を兼ねて1年の楽しかったこと・苦労したことを語り合い、当日は新しい会員となられた蓮田市議会議員山田慎太郎さん、ゲストとして世界的なファッションデザイナー 幾田桃子さんもご参加されました。



中野顧問(左から3人目)と出席者

編集後記

今回初めて会報を担当させていただきました。会報作成の知識が全くなかったのですが時間もかかってしまいました。原稿を集め配置を考えて入れ込む作業や、写真のレイアウトなど、初めての作業でした。ユネスコ活動の開催までも、準備を何度も重ねていることを目の当たりにし、はじめから終わりまで心がこもった活動であると感じました。一文字一文字丁寧に確認しながら仕上げた会報30号からも、その活動の様子が伝われば幸いです。(学生会員 内山里々花)